

チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性

トウモロコシ 6275 系統の申請書概要

1. 申請品種（チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ 6275 系統）の概要

申請者：ダウ・ケミカル日本（株）
開発者：ダウ・アグロサイエンス社

遺伝子組換えトウモロコシ「チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ 6275 系統」（以下、「6275 系統」という）は、デント種に属するトウモロコシに *Bacillus thuringiensis* 由来の *cryIF* 遺伝子を一部改変した改変 *cryIF* 遺伝子、及び *Streptomyces hygroscopicus* 由来の *bar* 遺伝子を一部改変した改変 *bar* 遺伝子を導入したトウモロコシである。改変 *cryIF* 遺伝子を導入することにより、B. t. タンパク質（殺虫性タンパク質）が発現し、チョウ目害虫に抵抗性をもつ。また、改変 *bar* 遺伝子を導入することにより、PAT タンパク質（除草剤耐性をもたらす酵素）が発現し、除草剤グルホシネートに耐性を持つ。

なお、当該品種には選択マーカーは含まれていない。

2. 6275 系統の利用目的および利用方法

6275 系統が従来のトウモロコシと異なる点は、チョウ目害虫に対する防除に必要な薬剤が不要であること、及び生育期の雑草防除に除草剤グルホシネートを使用できることであり、その食品としての利用目的や利用方法に関して、従来のトウモロコシとの相違はない。

3. 諸外国における申請等

2004 年 6 月 30 日に米国食品医薬品局（FDA）は食品としての安全性の審議を終了した。

2006 年 6 月 28 日にカナダ保健省（Health Canada）は食品としての安全性確認を行った。

なお、申請資料は、「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」（平成 16 年 1 月 29 日 食品安全委員会決定）に沿って作成されている。